

# 令和6年度 目標設定書（学校教育課）

学校教育課長 岩瀬和也

<b>1 当課の主な業務は次のように定義されます。</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への就学・転入学の手続き、児童生徒の保健衛生等に関すること</li> <li>・学校の教育課程、学習指導、生徒指導、教職員の人事管理等に関すること</li> <li>・教育に関する各種調査・統計に関すること</li> </ul>				
<b>2 当課の業務は次の方々のために行われます。</b>				
毛呂山町に住んでいる児童生徒とその保護者の方々のために。 また、学校教育にご支援ご協力をいただいている全ての町民の皆さんのために。				
<b>3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。</b>				
目標名	確かな学力の定着と自立する力の育成			
指標名	埼玉県学力・学習状況調査で前年度から学力が伸びた児童生徒の割合（国語）			
数値目標	初期値（平成30年度）	61.8%		
	現状値（令和5年度）	64.5%		
	最終目標値 （令和6年度）	R6時点目標値	-	
		H30当初目標値	65.0%	
設定根拠	第五次毛呂山町総合振興計画後期基本計画			
事業概要	各小中学校における指導方法研究等に「埼玉県学力・学習調査」を活用し、学習指導における質の向上を図ります。			
<b>4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。</b>				
「埼玉県学力・学習状況調査」は、児童生徒一人ひとりの学力の伸びの把握により、児童生徒の1年間の学習成果に加え、教員の取組の成果を確認することができます。 毛呂山町学力向上対策委員会において、学力向上に効果のあった取組を分析し共有することで、指導内容の工夫や改善を図ることができます。				
<b>5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。</b>				
国語については、学力を伸ばした児童生徒の割合が、目標値まであとわずかとなっており、学校ごとに見ると、目標値及び県平均を超える伸びが見られた学校、学年もありました。学力レベルで見ると学年が上がるごとに、県平均に近づいている傾向があります。また、児童生徒が「相手を意識して文章を書く」「学習の成果のふりかえりを文章で書く」活動への取り組みに力を入れている先生が、学力を伸ばしております。これらの取り組みを町内で共有し、児童生徒の「文章を書く」ことへの抵抗感を減らしていく必要があります。				
<b>6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。</b>				
学力向上対策委員会を通じて、「毛呂山町授業の心得」を活用した授業づくりについて再度周知を図ります。また、各学校で行っている「文章を書く」活動への取り組みについて、調査研究を行い、より効果がある取り組みを町内に広げていきます。さらに、特別活動の充実を図り、児童生徒が安心して自分の考えを言語化できるような学級経営について研究を深めて参ります。				

# 令和6年度 目標設定書（学校教育課）

学校教育課長 岩瀬和也

<b>1 当課の主な業務は次のように定義されます。</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校への就学・転入学の手続き、児童生徒の保健衛生等に関すること</li> <li>・学校の教育課程、学習指導、生徒指導、教職員の人事管理等に関すること</li> <li>・教育に関する各種調査・統計に関すること</li> </ul>			
<b>2 当課の業務は次の方々のために行われます。</b>			
毛呂山町に住んでいる児童生徒とその保護者の方々のために。 また、学校教育にご支援ご協力をいただいている全ての町民の皆さんのために。			
<b>3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。</b>			
目標名	確かな学力の定着と自立する力の育成		
指標名	埼玉県学力・学習状況調査で前年度から学力が伸びた児童生徒の割合（算数・数学）		
数値目標	初期値（平成30年度）		66.1%
	現状値（令和5年度）		46.8%
	最終目標値 (令和6年度)	R6時点目標値	-
		H30当初目標値	70.0%
設定根拠	第五次毛呂山町総合振興計画後期基本計画		
事業概要	各小中学校における指導方法研究等に「埼玉県学力・学習調査」を活用し、学習指導における質の向上を図ります。		
<b>4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。</b>			
「埼玉県学力・学習状況調査」は、児童生徒一人ひとりの学力の伸びの把握により、児童生徒の1年間の学習成果に加え、教員の取組の成果を確認することができます。 毛呂山町学力向上対策委員会において、学力向上に効果のあった取組を分析し共有することで、指導内容の工夫や改善を図ることができます。			
<b>5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。</b>			
全体としては、目標値に達することはできませんでしたが、目標値及び県平均を超える伸びが見られた学校、学年もありました。現状値と目標値との差が大きくなった要因としましては、学力の中間層に伸び悩みが見られたことや、令和5年度より始まったCBTによる調査により、学習端末操作に不慣れだったことが挙げられます。児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるような課題設定の工夫や、家庭学習も含めた習熟の機会の確保が必要となります。また、学習端末を効果的に活用した授業改善に取り組んでいく必要があります。			
<b>6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。</b>			
学力向上重点校を指定し、学力向上対策委員の授業参観や、研究協議会への参加を通して、重点校の取り組みを町内で共有して参ります。また、学力向上対策委員会を通じて、「毛呂山町授業の心得」を活用した授業づくりについて再度周知を図ります。さらに、算数における学力の中間層を伸ばすための取り組みについて、授業及び授業外の取り組みについて研究を深めて参ります。			